

# 言語学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
現代言語学概論	言語学入門（基礎）	2	小泉政利	前期 金曜日 2 講時	
現代言語学基礎講読	危機言語論	2	内藤 真帆	前期 月曜日 2 講時	
現代言語学基礎演習	言語のパラメトリックデータ分析	2	木山 幸子	前期 火曜日 2 講時	
言語交流学基礎講読	言語学概説	2	小泉 政利	後期 月曜日 2 講時	
音声学	音声学概説・調音音声学	2	内藤 真帆	前期 水曜日 3 講時	
音声学	音響音声学・聴覚音声学	2	内藤 真帆	後期 水曜日 3 講時	
現代言語学各論	フィールド言語学の実践と理論	2	内藤 真帆	前期 火曜日 4 講時	
言語交流学各論 (学習・言語心理学)	学習・言語心理学の基礎	2	木山 幸子	前期 水曜日 2 講時	
現代言語学演習	言語学研究法 I	2	小泉 政利 木山 幸子 内藤 真帆 王 軒 熊 可欣	前期 金曜日 3 講時	
言語交流学演習	未知の言語の調査と分析	2	内藤 真帆	後期 火曜日 4 講時	
現代言語学概論	言語学入門（運用）	2	木山幸子	後期 金曜日 2 講時	
現代言語学基礎演習	言語のカテゴリカルデータ分析	2	木山 幸子	後期 火曜日 2 講時	
現代言語学各論	言語と思考	2	小泉 政利	後期 月曜日 4 講時	
現代言語学各論	音韻論概説I	2	那須川 訓也	前期 水曜日 4 講時	
現代言語学各論	音韻論概説II	2	那須川訓也	後期 水曜日 4 講時	
現代言語学各論	コーパス言語学の基礎	2	李 在鎬	前期 火曜日 3 講時	
現代言語学各論	コーパス言語学の発展	2	李在鎬	後期 火曜日 3 講時	
言語交流学演習	統語論入門	2	小泉 政利	前期 月曜日 4 講時	
言語交流学演習	言語実験・調査実践	2	木山 幸子	後期 水曜日 2 講時	
言語交流学演習	実験プログラム作成の基礎	2	熊 可欣	後期 月曜日 3 講時	
現代言語学演習	言語学研究法 II	2	小泉 政利 木山 幸子 内藤 真帆 王 軒 熊 可欣	後期 金曜日 3 講時	

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：小泉政利

コード：LB35206 科目ナンバリング：LHM-LIN202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（基礎）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Linguistics (foundation)

3. 授業の目的と概要：現代言語学の研究目標，研究対象，分析方法，基礎的概念などについて学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：We will study the purpose, research objects, analytical methods, and basic concepts of modern linguistics.

5. 学習の到達目標：

(1) 現代言語学の研究目標と研究対象を理解する。

(2) 音韻論，形態論，統語論，意味論の基礎的な概念を理解し，それを使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：(1) To understand the purpose and research objects of modern linguistics

(2) To understand the basic concepts of phonology, morphology, syntax, and semantics,

and be able to analyze familiar linguistic phenomena

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・言語と言語学
2. 音声学
3. 音韻論 1：音素
4. 音韻論 2：音節
5. 音韻論 3：韻律
6. 形態論 1：形態素
7. 形態論 3：接辞
8. 形態論 4：語形成
9. 統語論 1：統語構造
10. 統語論 2：統語分析
11. 統語論 3：統語類型
12. 意味論 1：命題、モダリティ、ヴォイス
13. 意味論 2：テンス、アスペクト
14. 意味論 3：論理関係
15. まとめと試験

8. 成績評価方法：

概ね次のような基準で総合的に評価を決定します。

期末試験 50%、レポート 50%

9. 教科書および参考書：

小泉政利（編著）『ここから始める言語学プラス統計分析』共立出版

10. 授業時間外学習：毎週、教科書を使った予習と授業内容の復習をして下さい（2 時間程度）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学基礎講読／ Modern Linguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：前期 月曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB31203 科目ナンバリング：LHM-LIN208J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：危機言語論

2. Course Title (授業題目) : Endangered Languages

3. 授業の目的と概要：世界には消滅の危機に瀕した言語が数多く存在します。なぜ言語は消滅し、消滅により私たちは何を失うことになるのでしょうか。そして世界では保存・継承のためにどのような取り組みがなされているのでしょうか。英文献・論文の読解を通して、世界の言語状況を理解するとともに、講読の方法や論旨のまとめ方、引用の方法を学びます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : There are many endangered languages in the world. Why are these languages in danger or extinction, and what will be lost when a language disappears? What approaches have been taken, around the world, in order to preserve and revitalize languages? Students will study papers written in English in order to acquire both a perspective on global issues concerning language as well as greater proficiency in academic reading.

5. 学習の到達目標：

- ・社会言語学的視点から世界の言語状況を理解する。
- ・英文献の講読方法を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Students will acquire academic reading skills, by reading English books and papers about endangered languages, and they will also gain a greater understanding of international issues concerning language.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス・英語論文の構成について
2. 講読 (言語の消滅とは)
3. 講読
4. 講読 (言語が消滅する理由)
5. 講読
6. 講読 (言語の消滅は何を意味するのか)
7. 講読
8. 講読 (世界の言語状況－過去－現在－未来)
9. 講読
10. 講読 (言語の保存と継承)
11. 講読
12. 講読 (言語研究の方法)
13. 講読
14. 講読 (現状と課題)
15. まとめとディスカッション

8. 成績評価方法：

期末レポート (50%)、発表 (50%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

10. 授業時間外学習：英文献・論文に関する毎回の課題に対して、予習をしておいてください。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学基礎演習／ Modern Linguistics (Introductory Seminar)

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB32204 科目ナンバリング：LHM-LIN209J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のパラメトリックデータ分析

2. Course Title (授業題目)：Parametric data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要なデータ分析の実習を行います。言語使用に関する共通データについて、統計ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今期は、連続量の平均や分散に基づくパラメトリックデータの分析を扱います

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This is a practical course to cover a range of methods of statistical analysis required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course covers parametric data analyses based on means and variance of continuous data.

5. 学習の到達目標：

言語研究に必要な基本的な統計分析手法の要点を、とくにパラメトリックデータの側面について把握する。また、自身が扱う言語データについて、統計ソフトウェアを使って適切に分析できる素地を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on parametric data, used in language studies, to figure out the appropriate statistical analysis of your language data to answer your own research questions.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 変数、記述統計、統計的検定、推測
- (2) 相関分析
- (3) t 検定
- (4) 分散分析
- (5) 回帰分析
- (6) 共分散分析
- (7) 線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (30%)、期末テスト (20%)

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：言語交流学基礎講読／ Interlinguistics (Introductory Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB41203 科目ナンバリング：LHM-LIN210J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学概説

2. Course Title (授業題目)：Invitation to linguistics

3. 授業の目的と概要：英語で書かれた言語学の文献の講読を通じて、言語学の基礎を身につけます。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：Students will acquire the fundamentals of linguistics through reading linguistic literature written in English.

5. 学習の到達目標：

英語で書かれた言語学の文献が読めるようになること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of this semester, students should be able to read linguistic literature written in English.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 Guidance
- 2 Why study linguistics
- 3 How English has changed over the centuries
- 4 How words are made
- 5 How words mean
- 6 How phrases are formed
- 7 How sentences are formed
- 8 How sentences mean
- 9 How to communicate with other people
- 10 The sounds of language
- 11 Regional varieties
- 12 Language in Society
- 13 How language is acquired
- 14 How a second language is acquired
- 15 Review and exam

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：音声学／ Phonetics

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時

セメスター：3 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB33303 科目ナンバリング：LHM-LIN211J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音声学概説・調音音声学

2. Course Title (授業題目)：Phonetics: Overview and Articulatory Phonetics

3. 授業の目的と概要：音声産出のメカニズムと各音声器官の働きを把握したうえで、世界の言語音を対象に、「聞き取り・国際音声記号 (IPA) を用いた書き取り・発音」の 3 点を実践的に身につけます。音声と書記法の違いを理解するほか、同化・異化、強勢など、聞き取った音声をもとに分析や考察も行います。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will firstly learn about the function of the vocal tract within speech production and the airstream mechanism, they will then practice their listening skills, IPA phonetic transcription, and the pronunciation of a range of sounds found in languages from around the globe.

5. 学習の到達目標：

・世界の言語音の調音を理解し、聞き取り・書き取り・発音ができるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to explain the airstream mechanisms and be able to articulate and transcribe the sounds of spoken world languages.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音声学とは一音声産出・音の物理的性質・音の知覚
2. 音声器官と音声産出のメカニズム
3. 調音位置と調音方法
4. 国際音声記号
5. 子音 1. 破裂音・鼻音・ふるえ音
6. 子音 2. はじき音・摩擦音・接近音
7. 補助記号を用いた書き取り
8. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 1
9. 母音の性質と特徴
10. 単母音と二重母音
11. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 2
12. 世界の言語の聞き取り・書き取り・発音練習 3
13. 音素と音声特徴
14. 拍と音節・強勢とピッチ・同化と異化
15. プロソディー

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) J. C. Catford, A Practical Introduction to Phonetics, Oxford University Press (2002)

10. 授業時間外学習：授業後には調音位置・調音方法を復習したうえで発音の復習・練習を繰り返して行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：音声学／Phonetics

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB43303 科目ナンバリング：LHM-LIN211J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音響音声学・聴覚音声学

2. Course Title (授業題目)：Acoustic and Auditory Phonetics

3. 授業の目的と概要：言語音の物理的性質を実験的観察によって理解すると同時に、音を知覚するメカニズムを学びます。実験的観察ではパソコンを利用して、母音・子音の録音と分析実習を行い、調音と音声性質の相関性を科学的に分析する力を身につけます。さらにその発展的応用についても検討します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course provides students with the opportunity to study various topics concerning acoustic phonetics and speech perception. Students will analyze data and take note of articulatory-acoustic relations. We will, furthermore, discuss how to design a novel research application related to the results of that analysis.

5. 学習の到達目標：

- ・音声の物理的側面を理解し、科学的に分析する手法を身につける。
- ・分析により、連続した音声から個々の音の特徴を導くことができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to describe both acoustic phonetic features of various sounds, as well as the theory of speech perception. They will also be able to identify and understand correlation between articulation data and acoustic phonetic data.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 音響音声学・聴覚音声学とは
2. 聴覚器官と音の知覚
3. 純音と複合音
4. 波長・周期・周波数
5. 音源・共鳴・音源フィルター理論
6. パソコンを用いた音響分析の方法
7. 子音の調音と特徴
8. 共鳴音の波形とスペクトログラム
9. 阻害音の波形とスペクトログラム
10. 有声音と無声音
11. 母音の調音と特徴
12. 母音のフォルマント周波数
13. 狭帯域分析・広帯域分析
14. 聴覚現象
15. 音声性質・音の知覚にもとづく発展研究

8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)

9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。

(参考書) Keith Johnson, Acoustic and Auditory Phonetics, Wiley-Blackwell (2011)

10. 授業時間外学習：波形を分析するためには調音音声学の知識が必要になるため、予習と復習を行ってください。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 4 講時

Semester：5 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB52404 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：フィールド言語学の実践と理論
2. Course Title (授業題目)：Field Methods and Linguistic Analysis
3. 授業の目的と概要：フィールド言語調査の基本的な流れを、言語選定・調査地の探し方から調査票作成、調査・分析まで実践的に学びます。異なる言語集団の接触により誕生したピジン・クレオールを対象とし、基本的な音声・形態・文構造・意味の分析によりその言語特徴を明らかにするほか、音声と書記法・言語と国家・言語政策・言語接触・威信・借用などの社会言語学の観点からも分析・考察します。併せて、文化・歴史と関連させた言語人類学の観点からも考察します。なお比較・対照のために複数の言語データを扱います。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course introduces the fundamentals of research methodologies in Linguistics, covering everything from preparing the research project to them conducting it and analyzing the results. Students will research pidgin and creole, and analyze the data according to the perspective and methods of various approaches, such as descriptive linguistics, socio-linguistics, and linguistic anthropology.
5. 学習の到達目標：
  - ・ピジン・クレ奥ールの言語特徴を分析により導く。
  - ・言語調査の方法を身につける。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will have an understanding of the key procedural elements of field research in Linguistics, and they will also be able to explain the characteristics of pidgin and creole.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. フィールド言語学・記述言語学とは
  2. 調査地・調査言語の選定方法・調査許可
  3. 調査方法・調査準備・調査票 1 の作成
  4. ピジン・クレオールの背景
  5. ビスマラ語の聞き取り
  6. 現地語の聞き取り
  7. 3 言語の音声・音韻・形態の分析と比較
  8. 仮説の設定と調査票 2 の作成
  9. 3 言語の句構造・文構造の比較
  10. 名詞・動詞のパラダイム、意味体系の比較
  11. 仮説の設定と調査手法
  12. 3 言語の比較から導くピジン・クレ奥ールの特徴
  13. 音声と書記法、言語と国家、威信、借用
  14. 言語接触のプロセスと言語変化
  15. 社会言語学・言語人類学的分析と発展研究
8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
12. その他：なし



科目名：言語交流学各論（学習・言語心理学）／ Interlinguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 2 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB53210 科目ナンバリング：LHM-LIN322J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：学習・言語心理学の基礎

2. Course Title (授業題目)：Basics of learning psychology and psycholinguistics

3. 授業の目的と概要：学習心理学および言語心理学は、いずれも人間の行動様式の変容過程について、実験によって確かめようとする科学的研究分野です。本科目では、学習・言語心理学の要点を理解するために、受講生自身に文献を理解してまとめ、他の受講生と共有してもらいます。一つの知見を得るために対してなぜそのような方法論がとられているのかを考えながら、科学的方法論の趣旨を理解することを目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The study of learning psychology and psycholinguistics involves scientific investigations of processes in which human behaviors change, utilizing experiments. In order to have a general understanding of these fields, students are required to summarize a paper to share with other students. They will think about connections between purposes and procedures to understand essential components of scientific research.

5. 学習の到達目標：

学習・言語心理学の考え方や方法論の概要を理解する。当該領域の文献の要点を過不足なくまとめて専門外の他者にもわかりやすく伝えられるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, students should have a general understanding of concepts and methodology of learning psychology and psycholinguistics. They will improve effective presentation skills using their everyday vocabulary to share major points of research papers in this field with those without the knowledge.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の通りに進行する予定である。

- (1) ガイダンス：研究方法論と研究倫理（教員）
- (2) 実験研究の論文構成（教員）
- (3) 学習心理学概要（受講生）
- (4) レスポンデント（古典的）条件づけ（受講生）
- (5) オペラント（道具的）条件づけ（受講生）
- (6) 問題解決（受講生）
- (7) 技能学習（受講生）
- (8) 社会的学習（受講生）
- (9) 心理言語学概要（受講生）
- (10) 音韻の発達（受講生）
- (11) 語彙の発達（受講生）
- (12) 文法の発達（受講生）
- (13) 談話・会話処理の発達（受講生）
- (14) 言語に関わる障害（受講生）
- (15) まとめ（教員）

8. 成績評価方法：

期末レポート（50%）、発表分担（30%）、毎回授業の最後に課すワークシート（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。講読する文献のパッケージを配布する。

10. 授業時間外学習：受講者全員に発表を担当してもらうので、その準備を他のメンバーとよく協力して進め、自分の分担作業は責任をもって行うこと（その自信がない場合は受講しないこと）。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利・木山 幸子・内藤 真帆・王 軒・熊 可欣

コード：LB55302 科目ナンバリング：LHM-LIN311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 I

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research I

3. 授業の目的と概要：授業は、参加者の分担による発表および質疑応答の形式で行う。

3 年生は論文紹介の発表を行う。自分の関心により論文を選択し、論文の目的、方法、結果、考察についての的確にハンドアウトにまとめて紹介する。その際、テーマの発見、調査や実験の実施、論の展開と提示、統計処理、参考文献の利用と提示など、論文を書くために必要な事項について「批判的な姿勢」から学びとる。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法を身につけることを目的とする。

4 年生は卒業論文の研究計画を発表する。テーマの選択や先行研究の動向について

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will deliver an oral presentation, followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion, and conclusion of the article.

2. The presenter is supposed to deepen their understanding of methods of linguistic studies and presentation on the bases of the reactions from the audience.

3. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

言語現象に対する様々なアプローチを理解しながら、自らの関心対象を絞り、卒業論文のテーマを決定する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will be able to narrow down their interest in language and eventually find a topic of their thesis.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

この科目ではClassroomを使用して講義資料と講義情報を発信します。

1. ガイダンス

2. 論文 1 の紹介・研究計画発表、質疑応答

3. 論文 2 の紹介・研究計画発表、質疑応答

4. 論文 3 の紹介・研究計画発表、質疑応答

5. 論文 4 の紹介・研究計画発表、質疑応答

6. 論文 5 の紹介・研究計画発表、質疑応答

7. 論文 6 の紹介・研究計画発表、質疑応答

8. 論文 7 の紹介・研究計画発表、質疑応答

9. 論文 8 の紹介・研究計画発表、質疑応答

10. 論文 9 の紹介・研究計画発表、質疑応答

11. 論文 10 の紹介・研究計画発表、質疑応答

12. 論文 11 の紹介・研究計画発表、質疑応答

13. 論文 12 の紹介・研究計画発表、質疑応答

14. 論文 13 の紹介・研究計画発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業中の議論への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトは、事前に準備し、発表の週の月曜日までに配布すること。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：内藤 真帆

コード：LB62405 科目ナンバリング：LHM-LIN312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：未知の言語の調査と分析
2. Course Title (授業題目)：Research, Analysis, and Description of Non-Researched Languages
3. 授業の目的と概要：未調査・未解明で文字を持たない消滅寸前の少数言語、このような世界の言語を対象に、音声から音韻、形態、文の構造まで網羅的に調査・分析する方法を実践的に身につけます。さらに解明したことを言語学上の記号と術語を用いて、専門的かつ体系的に記述する方法を学びます。  
理論を用いても説明困難な言語現象をどのように分析・考察しうるか実際のデータを基に検討するほか、記述文法・辞書の作成に至るプロセスを体験し、消滅危機言語のアーカイブ化についても議論します。当講義では、話者 4 人の言語と話者 500 人の言語の一次データを扱います
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will focus on endangered languages that have not yet been researched. Students will both analyze data and document them using descriptive linguistic methods. The course will also include discussion about how such languages might be archived.
5. 学習の到達目標：
  - ・未知の言語の調査・分析方法を理解する。
  - ・導いた規則性や分析結果を、言語学の術語を用いて記述できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：By the end of this course, students will be able to research, analyze and provide a linguistic description of an unknown, unresearched language.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  1. 世界の言語状況、未知の言語・調査地の探し方
  2. 未知の言語へのアプローチ方法、調査媒介言語
  3. 調査言語・調査地の決定前に行う準備と許可申請
  4. 調査・分析・記述 1：音声の聞き取りと国際音声記号を用いた書き取り
  5. 調査・分析・記述 2：音素の設定と弁別的特徴
  6. 調査・分析・記述 3：形態音韻論的現象
  7. 調査・分析・記述 4：語形成のプロセスと音韻規則
  8. 調査・分析・記述 5：品詞分類と定義、文法範疇
  9. 調査・分析・記述 6：句・文の構造、文の必須要素
  10. 調査・分析・記述 7：結合価、移動、情報構造
  11. 調査・分析・記述 8：意味役割、意味体系、発話と意味
  12. 調査・分析・記述 9：共時的分析と通時的分析、言語変化
  13. 調査・分析・記述 10：説明困難な言語現象の分析と考察
  14. 調査方法と得られるデータの違い、データの記録方法
  15. 消滅危機言語の記述、保存と継承、アーカイブ化
8. 成績評価方法：

定期試験 (70%)、発表 (30%)
9. 教科書および参考書：

適宜、資料を配布します。
10. 授業時間外学習：授業後、扱ったデータや調べた文献をもとにして、さらにどのような調査や発展的分析・考察が可能であるかを考えてください。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
12. その他：なし

科目名：現代言語学概論／ Modern Linguistics (General Lecture)

曜日・講時：後期 金曜日 2 講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山幸子

コード：LB45203 科目ナンバリング：LHM-LIN202J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学入門（運用）

2. Course Title (授業題目)：Introduction to pragmatics

3. 授業の目的と概要：ことばは、様々な状況で、様々な相手と、様々な目的で用いられます。「語用論」は、ことばの意味が状況や対人関係に応じてどのように変わるかを分析する学問です。本科目では、語用論的に見て動きのある身近な言語現象を取り上げながら、これまでに発展してきた語用論の理論の概要を理解し、それらの理論を実証的に検証した主要な先行研究の要点を把握します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Language is used for various purposes with various others in various situations. The study of pragmatics concerns the processes where a linguistic expression can have many different meanings depending on context, situation and interpersonal relationship. This course surveys some familiar language phenomena in terms of pragmatics, through which students understand core theories of pragmatics and the major empirical findings regarding those theories.

5. 学習の到達目標：

身近な言語現象を語用論の視点から独自に分析的に考えられるようになる。また、実際の言語使用は使用者の特性（個人間の差および個人内の変化）に大きく左右されるものであることへの理解と受容の態度を持つ。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of this course, each student should have an analytic perspective of pragmatics about language phenomena around us. Students are also expected to be aware of, and open-minded about the diversity of language uses, which are highly dependent upon individual differences and changes (within and between individuals).

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) あいさつ：対人関係構築の端緒を開く
- (2) 呼称：人をどう呼ぶか？呼ばないか？
- (3) あいづち：促しか？さえぎりか？
- (4) 敬語の古今：通時的变化をたどる
- (5) 敬語の東西：共時的变化をたどる
- (6) 間接的発話行為：なぜはっきり言わないの？
- (7) ことばと感情：話し手の気持ちが現れる言語マーカー
- (8) 子どものことば：発達における共同注意の役割
- (9) ことばの性差：遺伝的影響？環境的影響？
- (10) 母語と外国語：その習得過程の違い
- (11) ことばと加齢：衰える機能、保たれる機能、向上する機能
- (12) ことばの障害：語用論的処理を中心に

8. 成績評価方法：

毎回授業の最後に課すワークシート（50%）、筆記試験（50%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：毎回とりあげるテーマに関連の深い文献を紹介するので、それを読むこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学基礎演習／ Modern Linguistics (Introductory Seminar)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：4 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB42205 科目ナンバリング：LHM-LIN209J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語のカテゴリカルデータ分析

2. Course Title (授業題目) : Categorical data analysis of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、言語研究に必要な統計的データ分析の実習を行います。言語使用に関する色々なデータについて、統計ソフトウェア R を使いながら主要な分析方法を体験してもらいます。とくに今期は、カテゴリカルデータ（ある基準によって分類された離散データ）の分析を扱います。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : This is a practical course to cover a range of methods of statistical analysis required for studies of language. Students will learn how to use R statistical software packages for major methods using various data sets regarding language use. Particularly, the course covers categorical data analyses.

5. 学習の到達目標：

言語研究で用いられる基本的な統計分析手法の要点を、とくにカテゴリカルデータの側面について把握し、自身が扱う言語データについて研究課題に応じて適切な分析法を応用できる素地を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon completion of this course, students will have an essential understanding of basic statistical analysis, especially focusing on categorical data, used in language studies, to figure out the appropriate statistical analysis of your language data to answer your own research questions.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

以下の話題を取り上げる予定である。

- (1) 記述統計、統計的検定、統計的推測
- (2) カイ二乗検定
- (3) 残差分析
- (4) 評定者間信頼性分析
- (5) クラスタ分析
- (6) 判別分析
- (7) 決定木分析
- (8) ロジスティック線形混合モデリング

8. 成績評価方法：

実習（授業および宿題 50%）、毎回授業の最後に課すワークシート（30%）、期末テスト（20%）

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：実習の内容を確認する宿題を課すことがある。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 4 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB61405 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語と思考

2. Course Title (授業題目) : Language and thought

3. 授業の目的と概要：この授業の目的は、言語と思考に関する研究事例の批判的検討を通じて、心理言語学の基礎を学ぶことである。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : The purpose of this class is to learn the basics of psycholinguistics through a critical review of research cases on language and thought.

5. 学習の到達目標：

下記について自分なりに説明できるようになることを目標とする。

a) 文の理解と産出の心内処理メカニズム

b) 言語と思考の関係

6. Learning Goals(学修の到達目標) : By the end of the course, students should acquire a basic understanding of

a) mental processes underlying sentence comprehension and production, and

b) the interaction of language and thought.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス、語順と文処理負荷 1：有生性

2 語順と文処理負荷 2：格助詞、意味役割、文法関係

3 語順と文処理負荷 3：SO 語順選好

4 演習 1：痕跡の心理的実在性

5 言語と脳 1：脳の構造と機能局在、脳機能計測、言語処理の神経基盤

6 言語と脳 2：語順選好と左下前頭回

7 言語と脳 3：かき混ぜ処理の時間経過

8 言語と脳 4：言語産出の処理負荷

9 演習 2：言語の理解と産出

10 二格目的語とヲ格目的語 1：二格目的語他動詞文、統語的使役文

11 二格目的語とヲ格目的語 2：語彙的三項動詞文

12 演習 3：頻度と予測

13 情報構造 1：情報構造がかき混ぜ文理解に与える影響とそのタイミング

14 情報構造 2：情報構造と統語構造がかき混ぜ文処理に与える影響：ERP に基づく検討

15 復習とレポート試験

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

・レポート試験：50%

・各授業の小レポート：50%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：那須川 訓也

コード：LB53402 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 I

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology I

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節・超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声が、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns and suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：

この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系、(ii) 音現象を制御する規則、(iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第 1 回：音韻論とは何か。

第 2 回：音韻論と音声学

第 3 回：規則体系としての言語

第 4 回：言語機能

第 5 回：中核文法と周辺体系

第 6 回：音素論

第 7 回：音素と異音

第 8 回：対立分布と相補分布

第 9 回：異音規則

第 10 回：音配列論

第 11 回：音節構造

第 12 回：きこえ度

第 13 回：音韻範疇

第 14 回：母音素性

第 15 回：子音素性

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (50%)，確認テスト×1 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利（編）2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。  
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：那須川訓也

コード：LB63401 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：音韻論概説 II

2. Course Title (授業題目)：Introduction to phonology II

3. 授業の目的と概要：この授業を通して、英語と日本語の母語話者が示す分節・超分節現象で観察される規則に焦点を当て、音声が、言語（文法）構造を構成している単位としてどのように機能しているかを学ぶ。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will study how speech sounds function as units of linguistic (grammatical) structure, focusing on segmental patterns and suprasegmental patterns in native-speaker spoken English and Japanese.

5. 学習の到達目標：

この授業を通して、諸言語話者の (i) 母語の音体系, (ii) 音現象を制御する規則, (iii) 文法理論における音韻知識の位置づけ、を説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：After completing this course, students will be able to explain (i) what language speakers know about their native sound system, (ii) some of the rules controlling sound patterns in a particular language, and (iii) where phonological knowledge belongs in a general theory of grammar.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業計画は以下の通りである。毎回の進度は受講者の様子によって若干変わります。

第 1 回：分節構造

第 2 回：超分節構造

第 3 回：音声データと音韻分析

第 4 回：静的分布規則と動的分布規則

第 5 回：子音配列

第 6 回：母音配列

第 7 回：借用語と音韻規則

第 8 回：素性一致：隣接同化

第 9 回：素性一致：調和現象

第 10 回：子音軟音化

第 11 回：母音弱化

第 12 回：強勢規則

第 13 回：接辞化と音韻規則

第 14 回：複合語形成と音韻規則

第 15 回：イントネーション

毎回授業の冒頭で、前回の授業内容を復習する。

8. 成績評価方法：

レポート課題×2 (50%), 確認テスト×1 (50%)

9. 教科書および参考書：

教科書：小泉 政利（編）2016. 『ここから始まる言語学プラス統計分析』 共立出版。

10. 授業時間外学習：毎回、授業で扱った教科書の個所と例を復習すること。そして不明な部分があれば、教員に尋ねること。  
[After each class students are expected to review the material and examples studied in class, and to ask the instructor for guidance/clarification where necessary.]

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし



科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：李 在鎬

コード：LB52304 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパス言語学の基礎

2. Course Title (授業題目) : Basic corpus linguistics

3. 授業の目的と概要：この授業では、コーパスデータを利用したデータ分析の方法について学びます。前半では研究デザインとデータの集め方や集計方法について説明します。後半では、コンピュータを使って分析をしながら、データ分析を体得します。データファイルの作成から分析にいたる一連のプロセスを紹介します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要) : In this course, students will learn the methodology of data analysis utilizing corpus data. First, the instructor will explain research design, data collection and calculation. Then, we will experience the process of data analysis using computer, including the ways of making data files and analyze them.

5. 学習の到達目標：

1) 生データから、コンピュータツールを使い、集計を行うことができる。2) 集計したデータの記述統計量や相関などの特徴を分析できる。

6. Learning Goals (学修の到達目標) : Upon completion of the course, students will learn:

1) how to collect and summarize data using computer

2) how to analyze descriptive statistics and correlations of the data

7. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回 ガイダンス

第2回 データ分析の心得：データを使った研究で大切なこと

第3回 研究をデザインする

第4回 データを集める

第5回 データを数える

第6回 データを可視化する

第7回 データの代表値を計算する

第8回 データとデータの間を調べる 1

第9回 データとデータの間を調べる 2

第10回 データとデータの間を調べる 3

第11回 データとデータの間を調べる 4

第12回 データとデータの違いを調べる 1

第13回 データとデータの違いを調べる 2

第14回 データの特徴を抽出する 1 : KH Coder の利用

第15回 データの特徴を抽出する 2 : KH Coder の利用

8. 成績評価方法：

平常点（出席、クラス参加、グループ作業の成果等）60%、レポート40%

9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書として、李在鎬、石川慎一郎、砂川有里子（2018）『新日本語教育のためのコーパス調査入門』（くろしお出版）、小林雄一郎（2019）『ことばのデータサイエンス』朝倉書店を持っておくと良いと思います。

10. 授業時間外学習：データ分析課題をやっていただきます。

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：現代言語学各論／ Modern Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 3 講時

semester：6 単位数：2

担当教員：李在鎬

コード：LB62305 科目ナンバリング：LHM-LIN303J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：コーパス言語学の発展
2. Course Title (授業題目)：Advanced corpus linguistics
3. 授業の目的と概要：この授業では、コーパスデータを利用したデータ分析の方法について学びます。受講生の研究テーマに合わせて取り上げるコーパスや方法を決めます。前期の授業で取り上げた方法を使い、自らの研究テーマに合わせた調査を行い、発表していただきます。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course, students will learn the methodology of data analysis utilizing corpus data. The instructor will choose corpus and methods according to students research topics. Students will conduct survey using the methods which the instructor presented during the last semester.
5. 学習の到達目標：
  - 1) 自らの研究テーマに合わせたコーパス調査のデザインができる。
  - 2) コーパス調査の結果を発表し、討論できる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Upon completion of the course, students will learn:
  - 1) how to design corpus studies according to their research interests
  - 2) how to share and discuss data of corpus survey
7. 授業の内容・方法と進度予定：
  - 第 1 回：ガイダンス
  - 第 2 回～5 回：コーパス調査の方法（受講生のテーマに合わせて設定します）
  - 第 6 回～8 回：コーパス調査の研究事例
  - 第 9 回～10 回：発表資料の作成（応談）
  - 第 11 回～15 回：受講生によるコーパス調査の事例発表
8. 成績評価方法：

プレゼンテーション 60%、レポート 40%
9. 教科書および参考書：

教科書はありません。参考書として、李在鎬、石川慎一郎、砂川有里子（2018）『新日本語教育のためのコーパス調査入門』（くろしお出版）、小林雄一郎（2019）『ことばのデータサイエンス』朝倉書店を持っておくと良いと思います。
10. 授業時間外学習：プレゼンテーションのための資料作成
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicate the practical business
12. その他：なし  
受講生の人数によっては、グループワークとしてコーパス調査を行うこともあります。

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：前期 月曜日 4 講時

セメスター：5 単位数：2

担当教員：小泉 政利

コード：LB51402 科目ナンバリング：LHM-LIN312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：統語論入門

2. Course Title (授業題目)：Introduction to Syntax

3. 授業の目的と概要：この授業では、まず統語論の基本的な概念と原理を学び、その後にさまざまな統語現象の分析事例に触れます。また、口頭発表および自律的な学習習慣のスキルの獲得も目指します。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course deals with the basic concepts and principles of syntax as well as case studies of various syntactic phenomena. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and self-regulated learning.

5. 学習の到達目標：

統語論の基本的な概念と原理について自分の言葉で説明できるようになること。

身近な言語現象について自分なりに分析しようとする姿勢を身につけること。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：By the end of the course, students should be able to describe in their own words the basic concepts and principles of syntax, and develop an attitude of trying to analyze familiar linguistic phenomena in their own way.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. ガイダンス
2. ことばの科学的研究方法
3. ことばの獲得の不思議、普遍文法
4. 語彙範疇と機能範疇、統語構造
5. X バー理論、文の構造を再考する
6. 意味役割、能動と受動
7. 数量詞と代名詞、コントロールと上昇
8. 非対格仮説、動詞句内主語仮説
9. 主要部移動、Wh 疑問詞と題目の移動
10. 補文の構造、補文の分布
11. 文構造の獲得、文の構造と格関係
12. 名詞句修飾節における格の交替現象、動詞と格の獲得
13. 項省略、名詞句の省略
14. 省略の獲得、2 種類のスクランブリング
15. 移動と語順の制約、否定辞と数量詞の作用域

8. 成績評価方法：

概ね以下の基準で総合的に評価する。

- ・発表：40%
- ・宿題：40%
- ・平常点：20%

9. 教科書および参考書：

開講時に指示します。

They will be designated at the beginning of the course.

10. 授業時間外学習：自ら主体的に計画と目標を立て、自律的に準備学習に取り組んで下さい。

Students are strongly expected to voluntarily develop a plan and goals and to undertake preparatory learning.

11. 実務・実践的授業/Practical business

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：なし

科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：木山 幸子

コード：LB63207 科目ナンバリング：LHM-LIN312J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語実験・調査実践

2. Course Title (授業題目)：Practicum of experiment and survey of language

3. 授業の目的と概要：本科目では、実証的な言語研究を実際に体験するために、グループを組んで調査・実験の小プロジェクトを行います。研究テーマ・デザインの立案、調査・実験素材の準備、データ収集、分析、まとめと発表までの一連の作業を授業期間内に行います。期間内に実現できるよう教員が助言をしますが、基本的にはグループのメンバー同士の主体的な協同により、一つの研究成果をあげてもらいます。この作業を通して、実証的な言語研究の醍醐味に触れてもらうことを期待します。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：This course will provide students teams with the opportunity of a collaborative project to conduct an experiment or a survey to experience an empirical study of language. Each project will include forming a research question, designing an experiment or a survey, preparing materials and the program, data collection, analysis, interpreting and summarizing the finding, and presentation. Each student needs to be cooperative with other members of the team to carry out an independent research until the course completion under supervision of the instructor. The activity will let you find empirical language studies to be fascinating.

5. 学習の到達目標：

実証的言語研究の一連の過程を体験することで、科学的思考方法および共同作業に必要な調整能力の基礎を身につける。また、実際の言語処理過程が自分一人の頭の中で想像していることとは決して同じではない（大いに異なる）ことを目の当たりにし、「データを取って確かめる」ことの意義を理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：The goal of the practicum is for students to develop the basics of scientific thinking and collaboration skills. Upon the completion of the course, students will understand the significance of data-driven investigations, facing the big difference between actual human language processing and what you have imagined about it.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

以下の内容を予定している。

- (1) テーマ策定
- (2) 研究倫理
- (3) 研究デザイン立案
- (4) 実験・調査準備
- (5) 実験・調査実施
- (6) 取得データ分析
- (7) データの解釈
- (8) 研究のまとめ
- (9) 研究成果の共有

8. 成績評価方法：

グループワークへの貢献 (50%)、毎回授業の最後に課すワークシート (20%)、最終レポート (30%) によって評価する。

9. 教科書および参考書：

指定しない。参考文献は授業中随時紹介する。

10. 授業時間外学習：グループに分かれて小プロジェクトを行うので、相当の時間外学習が必要になります。とくに、データを収集する作業は完全に授業時間外に行ってもらうことになります。プロジェクトを成功させ他のメンバーに迷惑をかけないために、自分が分担する作業を責任をもって行う意思のある学生のみ受講登録してください（初回でその意思の確認をします）。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし

**科目名：言語交流学演習／ Interlinguistics (Seminar)**

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：熊 可欣

コード：LB61304 科目ナンバリング：LHM-LIN312J 使用言語：日本語

**【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】**

1. 授業題目：実験プログラム作成の基礎
2. Course Title (授業題目)：Introduction to programming experiments for psycholinguistic research
3. 授業の目的と概要：本講義では、心理言語学の実験やオンライン調査を作成する時によく使われる PsyToolkit およびソフトウェア E-prime の使い方を説明する。プログラミング経験ゼロの学生でも、最終的に自分が行いたい調査または実験のプログラムを作成できるように、毎回基礎事項を説明した上で、学生各自が手を動かすことによってプログラムの作成を体験してもらう。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：The core mission of this course is to help students (who have no experience in programming) be able to program experiments and web-based tests using PsyToolkit and E-prime. I will introduce some basic items at the beginning of each class and then ask students to program some traditional psycholinguistic experiments with me.
5. 学習の到達目標：  
PsyToolkit および E-prime の使い方を習得し、自分の研究で使う実験プログラム・オンライン調査を作成できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students would be able to program web-based tests and experiments for their research using PsyToolkit and E-prime.
7. 授業の内容・方法と進度予定：  
以下の内容を取り上げる予定である。  
第1回 ガイダンス  
第2回 PsyToolkit 基本操作  
第3回 PsyToolkit 基本操作  
第4回 PsyToolkit によるオンライン調査の作成  
第5回 E-prime 基本操作  
第6回 E-prime 基本操作  
第7回 E-prime によるプログラム作成 語彙性判断課題  
第8回 E-prime によるプログラム作成 自己ペース読み課題  
第9回 E-prime によるプログラム作成 命名課題  
第10回 E-prime によるプログラム作成 音声提示による課題  
第11回 E-prime による脳波実験用プログラムの作成  
第12回 調査・実験プログラム自主作成  
第13回 調査・実験プログラム自主作成  
第14回 EEGLAB による脳波解析入門  
第15回 EEGLAB による脳波解析入門
8. 成績評価方法：  
授業参加(40%)、期末レポート(60%)
9. 教科書および参考書：  
指定しない。資料を配布する。  
No textbooks will be used. References are handed out at every class.
10. 授業時間外学習：毎回授業内容を復習すること。  
Students are expected to review the materials and examples studied in each class.
11. 実務・実践的授業/Practical business  
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
12. その他：なし  
やむを得ず欠席する場合は、あらかじめ申し出ること。  
If you have to be absent from class, you must notify the lecturer in advance.

科目名：現代言語学演習／ Modern Linguistics (Seminar)

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：6 単位数：2

担当教員：小泉 政利・木山 幸子・内藤 真帆・王 軒・熊 可欣

コード：LB65303 科目ナンバリング：LHM-LIN311J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：言語学研究法 II

2. Course Title (授業題目)：Methods of linguistic research II

3. 授業の目的と概要： 3 年生は前期に引き続き論文紹介を行いそれを卒業論文にどう繋げるかを発表するか、卒業論文の構想を発表する。これにより、卒業論文作成のための知識ならびに方法をさらに深く身につけることを目的とする。

4 年生は卒業論文の進捗状況を中間発表する。テーマの選択や先行研究のまとめだけでなく、データ収集・調査・実験等の実施方法、分析手法、予想される結果と意義、およびその時点までに得られた暫定的な結果とその解釈などについて、できるだけ具体的に発表する。

その日の発表者以外の参加者は、他者の発表を聴き、ディスカッション

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this course third year students will deliver an oral presentation of a journal article of their own choice, while fourth year students an interim report of their thesis. Oral presentations will be followed by a discussion among the participants.

1. An oral presentation should adequately cover the aim, data, method, results, discussion and conclusion of the article/thesis.

2. Participants should seek to gain acquaintance with various fields of linguistic studies and to participate in the discussion in order to help the presenter to improve their presentation.

5. 学習の到達目標：

よりよい卒業論文を作成するための方法を身につける。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will develop skills to write better theses.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

授業実施方法：オンライン

1. ガイダンス

2. 論文 1 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

3. 論文 2 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

4. 論文 3 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

5. 論文 4 の紹介発表、質疑応答。卒業論文中間発表

6. 論文 5 の紹介発表、質疑応答

7. 論文 6 の紹介発表、質疑応答

8. 論文 7 の紹介発表、質疑応答

9. 論文 8 の紹介発表、質疑応答

10. 論文 9 の紹介発表、質疑応答

11. 論文 10 の紹介発表、質疑応答

12. 論文 11 の紹介発表、質疑応答

13. 論文 12 の紹介発表、質疑応答

14. 論文 13 の紹介発表、質疑応答

15. 全体のまとめ

8. 成績評価方法：

授業への参加 50%、発表 50%

9. 教科書および参考書：

教科書は使用しない。

10. 授業時間外学習：発表のためのハンドアウトを事前に準備し、配布する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

12. その他：なし